

## 第 11 回 国立天文台サイエンスロードマップ策定委員会議事抄録

日時：2025 年 10 月 22 日（水） 14 時 10 分～16 時 22 分

場所：国立天文台大会議室、Zoom

出席者：

（台外）秋山正幸委員（Zoom）、石原安野委員（Zoom）、河野孝太郎委員、住貴宏委員（Zoom）、高橋慶太郎委員（Zoom）、濤崎智佳委員（Zoom）、戸谷友則委員（Zoom）、堀田英之委員（Zoom）、渡邊誠一郎委員（Zoom）

（台内）井口聖委員（Zoom）、生駒大洋委員（Zoom）、齋藤正雄委員、竜木則行委員、野村英子委員（Zoom）、藤井友香委員（副委員長）、本原顕太郎委員（委員長）、吉田道利委員

欠席者：

（台外）高田昌広委員

（台内）都丸隆行委員

陪席：

（台内）土居守台長（Zoom）、金子修研究推進課長、大内香織研究支援係長

### 1. 確認

#### 1.1 出席者確認

本原委員長から、出席者の確認を行った。

#### 1.2 第 10 回議事抄録の確認

本原委員長から、9 月 19 日に開催された第 10 回国立天文台サイエンスロードマップ策定委員会の議事抄録（案）について説明があり、承認された。

### 2. 報告と議論

#### 2.1 サイエンスロードマップ策定に関する質問・提言

本原委員長から、タウンミーティングの参加者（録画視聴）から、サイエンスロードマップ（以下「SRM」）策定においてコンプライアンス及びハラスメント対策の観点が必要、との意見がメールで寄せられたことの報告があった。

意見交換の結果、所属機関で対応すべきものであるが、実施計画策定において重要な観点であることを SRM 報告書に記載することとし、委員長からその旨回答することとした。

#### 2.2 各提案の NAOJ へのリソース要求情報の収集について

本原委員長から、各提案者に提出を求める国立天文台へのリソース要求のフォーマットについて、前回の議論を反映した修正案が示された。意見交換の結果、一部修正のうえ提案者へ依頼することを決定した。

## 2.3 ヒアリング

### 2.3.1 追加採点状況

藤井委員から、各提案の採点状況について報告があった。評価者が 2 名以下となっていた提案は台内委員が追加で採点を行い、全ての提案について 3 人以上による採点が完了したとの説明があった。

### 2.3.2 第 2 回ヒアリングに向けた追加 RIX について

本原委員長から、各委員による追加 RIX の記入状況について確認を行い、ヒアリングが必要なレベルの質問は無いとの見解が委員長より示された。意見交換の結果、回答期間を 2 週間として各提案者へ依頼することとした。

また、藤井委員から、各委員が作成したフィードバックまとめの改めての確認、及び未作成の委員に対して至急作成するよう要請があった。

## 2.4 提案書の SRM 掲載/不掲載及び優先度について

藤井委員から、SRM への提案書を三段階（SRM に掲載して優先度が高い、それ以外、SRM に不掲載）に分ける際のステップとその論点について素案の提示があり、意見交換を行った。本件については、引き続き次回も議論することとした。

（主な意見交換）

#### ○決定のステップについて

一次期フロンティアの提案の中には二者択一的なものもあり、深い議論が必要である。その上で、運営費交付金プロジェクトは各提案の指標を元に議論すれば良い。ただし、全員で採点した訳ではないため、数字だけでなく議論した上で優先度を分けるのが良い。

#### ○論点「将来のフロンティアの選択をするか」について

一実施計画を作る上では優先順位を決めた方が良いが、大きな選択であり、本委員会での議論が足りていないように思う。

一今こそコミュニティとの話し合いを始めるべき。コミュニティでも優先順位が決まっておらず、現時点では、全部は実現できない可能性が高いといった但し書きを付けた上で並記するしかないのではないか。

一SRM 報告書の素案の提示まで 2 週間という状況で、本委員会としてどこまで踏み込んで書くかは非常に重要である。コミュニティに対して突きつけるように書くのか、（コミュニティの意見を）待つ形で書くのか、いくつか選択肢がある。

一待つのではなく突きつける形で書くべき。状況はどこも理解しており、真剣に議論して何かを決めていく方向でいかなければいつまで経っても決められない状態が続いてしまう。

一将来シンポジウムでの意見交換やパブリックコメントの募集など、提案者、コミュニティからフィードバックを受ける機会はまだある。そういうものを通じて最終的な格好にしてはどうか。

－既存のものを全部動かしながら将来のものを全部やることが不可能である以上、どれを選ぶかの前に、どのように選ぶものを決めていくかという議論が必要である。

－問題は SRM の議論の中にそれをどこまで入れるのかであり、どちらかというと実施計画策定に非常に近いことだと考えている。SRM ではどれくらい面白いサイエンスができるかを優先し、それをベースに実施計画で選択を行うのが良いのではないか。

－実施計画でいきなり選ぶことをすればコミュニティに非常に不満が残る。SRM の中でその分野の将来を見据えて論拠になるものを入れ込んでおき、その上で選んでいく構図を作つておくべき。その形を作つておけば、その後は国立天文台でリソース等をよく考えてもらい、実施計画に移していくのではないか。

－SRM 報告書の素案の段階では結論は出せない。そのようなことを議論しなければならないことを明確にして将来シンポジウムに臨むこととし、引き続き次回委員会で議論したい。

#### ○プロジェクト段階分け対象の選別 (STEP2)

－SRM に掲載することが必ずしも最適でないと考えられる提案の候補として、「すばる望遠鏡の将来像の中で議論することが望ましい」とするものと「科学研究部の中で整理して推進することが望ましいもの」(拠点系の提案) がある。

－拠点系の提案については、SRM に不掲載としてもプロジェクトを跨ぐようなものも大事であるとまとめ、メンションする仕方もある。

－SRM に載らず、サイエンスとして否定されたと誤解されないように注意して書く必要がある。その上で、必ずしもプロジェクトとしてやっている訳ではないということを整理して記載すれば良いのではないか。

#### ○国立天文台で実施する意義の確認

－国立天文台で実施する必然性があるか／施設を活かしているか」の項目で点数が低いものは不掲載とすることで良いか。

－国立天文台以外が主体となって実施するものである。サイエンスを否定するものではなく、国立天文台の研究者が関わることに問題はないことが分かるようにしたほうが良い。

#### ○SRM に掲載・優先度高の選定、及びそこから見えてくるサイエンスの軸の定義 (STEP5)

－（「優先度が高い」とする提案について）各プロジェクトを個別に記述していくのではなく、軸になる（優先され得る）サイエンス分野をピックアップしてそれらを包含する括りとするのはあり得るか。

－何らかの（優先的な）分野を出して書いていくことは SRM として重要な最終的にても良いが、例えば電波分野では大きな計画が 5 つほど並んでおり、それで成り立つか疑問である。コミュニティのリソースと整合した SRM であつて欲しい。

－国立天文台の中での「優先度が高い」とする候補の議論では、サイエンスの重要性、国立天文台が実行する意味があるものという視点であった。予算的な実行可能性はあまり考

慮していない。

－時間軸の視点が必要である。大きな計画でも次の 6 年ではそれほど予算が必要でないというものもある。時間軸で配置していくと実現性がもう少し高く見えるのではないか。

－実際には提案側もそのあたりは意識している。フロンティアとの連携や国際協力など、全て絡んでいる。サイエンスだから面白いものは全て残しましただけではなく、提案を選択するスキームに落としていける何かが SRM の中で語られると良い。

－そこをどう語るかである。本委員会で選択することは難しいと考えており、コミュニティに対して「選択する必要がある」という一文を加えるのも考えられる。

－コミュニケーションにやれるところまで議論してもらい SRM に盛り込んでいく努力をしなければ、いつまでも決められないになってしまう。上手く SRM を使えば良い。

－SRM はサイエンスオリエンティッドなものにしたいという気持ちはあるが、全部は出来ませんよ、といった雰囲気を出すような文章にできればと思う。

## 2.5 SRM 報告書

藤井委員から、前回委員会に引き続き SRM 報告書の構成案について説明があった。第 3 章 (SRM に対応する部分) の項目建てとして 2 案が示された。意見交換の結果、各項目において具体的な記述を入れたものを準備し、次回委員会で改めて議論することとした。

## 2.6 今後の委員会開催日程

本原委員長から、次回の本委員会を 11 月 26 日に開催する旨アナウンスがあった。

以上